

農繁期

レポート

令和元年 6月号

バードライフファーム

オーナー	(一般)バードライフ・インターナショナル東京
水田面積	25.0アール
保証量	玄米1125kg
形態品種	特別栽培コシヒカリ



生産者

米風土鳥取の皆さん



梅雨入りが遅かったわりには夜の温度が低く、苗の成長はゆっくりです。しかし確実に大きくなっています。

間もなく分ケツ時期に入るので成長の邪魔をしない作業が大事になりますが、姿が一気に変わる時期なので楽しみな時期でもあります。

1. 草刈り(除草) 2. 水の管理

田植え後の田んぼの中には“ひえ”が生え、田んぼの周りには多様な雑草が生えてきます。ひえが生えたと稲に十分な栄養が行き届かず、周囲の雑草はそのままにしておくと虫が集まったり、雑草の種子が田んぼの中に入り稲の生育を邪魔します。その為、田んぼの中も周囲も除草作業が必要で一番体力を使う仕事ですが、最近は電動式やリモコン式など、徐々に機械化が進むことで薬だけに頼らない方法も取り入れることができるようになりました。

そして毎日気を遣うのは水の管理です。水には保温効果があるので、低温・強風の場合には深水させて稲を温ため、晴天・高温の場合には浅水することで稲にとってちょうどよい温度を保って成長を促しています。

6月の作業(草刈り)

1. ラジコン型除草機

ラジコン型が投入されている地域では大幅に農作業が効率化されています。人手は変わらず、毎年管理する圃場は増えていくので、機械化は重要です。



2. エンジン付き田車

田車は田んぼの中に入って押して草を取るものですが、田植え後に土をかき混ぜるので、田んぼに酸素が入って稲に良い影響を与えているのではないかとされています。

